



2023 年

5 月号

2023(令和5年)5月20日発行

# 栃木支部報

## 目次

p 1. -2. __支部報第 16 号の発行に当たって	p 25. -26. __ユース栃木山行
p 3. -5. __総会・役員会等	p 27. -31. __古道調査
p 5. -20. __各種山行等	p 32. -35. __会員情報
p 21. -24. __マスターズクラブ山行	p 36. __支部会員名簿、事務局より

16 号

## 支部報 16 号の発行に当たって

## 支部長 渡邊雄二

○2020 年 2 月に始まった新型コロナウイルス感染問題は、私たちが想定できないような展開になり、全世界に混乱が生じました。予定した東京オリンピックが延期になったことなどは、後世の記憶に残る典型的な事象でしょう。また、2022 年 2 月にはロシアのウクライナ侵攻が始まり、未だに収束の見通しはついておりません。ウィルスの攻撃や生々しい戦争の現実と毎日のニュースを通して接することになり、世界が混とんとしている悲惨な状況が眼のあたりになっています。

○そのような状況の中で、日本では本年 5 月に新型コロナウイルス感染症の法律上の分類が、「5 類」に引き下げられることになっており、季節性インフルエンザ等と同じ扱いになります。そのことによってこれまでの様々な行動制限がなくなります。日本国内で感染者が確認されてから約 3 年 4 か月を経て、コロナ対応は平時の体制に移行し、これまでの普通の日常が戻りつつあります。

○しかしながら、この 3 年余はコロナ感染防止のために「緊急事態宣言」の下、「新しい生活様式」が叫ばれ、私たちの生活に大きな変化が生じました。コロナ禍が落ち着きつつある中、その功罪が色々と議論されています。

○登山界ではこの 3 年間に大きな変化が見られました。山小屋の経営難と予約制、テント場の事前予約、山岳部活動の自粛、人手不足による登山道の崩壊、単独行登山者の増加、一人用テントの増加など枚挙に事

足りません。これらの問題に関して登山者自身も自分たちの問題として考え、取り組んでいく必要があります。本年の 3 月実施の「栃木県山の日協議会」が主催した講演会とパネルディスカッションはその良い例です。

○毎年、7 月に全国山岳遭難対策協議会という勉強会を国が主催しています。山岳遭難事故を防ぐために関係者で情報を共有しながら学び、事故防止の一助としましょう、という会です。そこでは、これまで「単独行登山はひかえましょう」ということが叫ばれていましたが、今年の会では「単独行登山の安全対策はどのようにしたら良いか」ということが一つのテーマになりそうです。コロナ禍での単独行登山が増加したため、「ひかえましょう」と呼び掛けるのではなく、実態に応じて積極的に安全対策を考えていきましょうと、転換せざるを得ないことになっているのです。そのためには安全登山のためにスタンダードなテキストが必要です。

○国立登山研修所では、研修テキストとして使用してきた「高みへのステップ」と「山岳遭難救助技術テキスト」を 36 年ぶりに全面改訂しました。この改訂にはコロナ禍が始まってすぐに取り組んだので、丸々 3 年の年月を要しました。私も執筆、編集作業に関わってきたので、個人的にはコロナの 3 年間は改訂作業の 3 年間とも言えます。内容は、5 部編成にして、登山の基本的な考え方や自然科学的な基礎知識、最新登山技術や遭難救助技術等を登山指導者として必要な事項を網羅しました。登山指導者向けの研修テキストとして編集したのですが、一般の登山者や単独行登山者にも分かりやすく編

+

集したものですので、大いに役立つものとなっています。公的な機関が作製したテキストですので、装備などについては、メーカーや商品名が特定できないようになっています。学校で使用している教科書と同じ取扱いです。一般の書店では取り扱っておりませんので、登山研修所のホームページ(HP)に購入の案内が掲載されていますので是非ご覧ください。一般の書物よりも格安にて購入することができます。また、テキストの5部はすべて電子書籍化してありますので、HPにアクセスして名前を登録するだけで、無料でいつでもどこからでもご覧いただけますので、是非ご活用ください。安全登山教育の要となる教材であることは間違いありません。(写真参照)

○最近の山の話で、大変残念な話を聞きました。新聞のニュースにもなりました。この冬山シーズンに北アルプスの山小屋が破られて荒らされた事例です。北アルプス最奥部の「三俣山荘」と「水晶小屋」が厳冬期(2月頃)に何者かによって破られ小屋の中にはゴミが散乱、破られた入り口や窓から雪が入り込んで惨たんたる状態だったようです。緊急避難として小屋を破って入ったということでは無いようです。厳冬期にこの地域に入山するには相当の体力と技術が必要です。そのような登山者が小屋破りをするとは、嘆かわしい出来事です。登山者のモラル低下が問われる事態です。コロナ禍によって人と人が直接接して学びあうことが少なくなった状況が続きました。コロナ禍の残した負の部分、大自然の中では通用しません。登山のモラル、リーダーシップ、フォロアーシップなど、たとえ単独行であっても、人と人とのつながりで学んでいく必要があるはずで、栃木支部では、この人間関係を大切にしていきたいものです。

○栃木支部の2022年度の活動は、共益事業、公益事業ともコロナ禍の前の状況に近づきつつありました。しかしながら、各事業とも「三密を避ける」という風潮が依然として支配的でしたので参加者が思うほど集まりませんでした。支部の広報の仕方にも力不足があったことは否めませんが、特に公益事業(親子登山教室、各種講演会など)の広報には工夫して行きたいと思っております。前述

した単独行登山者にも興味を持ってもらい、できれば日本山岳会の岳友として一緒に活動出来たらと良いと思います。

- JAC120周年記念事業「全国山岳古道調査」への取り組みは、プロジェクトチームにより一通り実施調査を終了することができました。次は調査内容を整理して、不足部分の再調査や歴史的な考察も加えて報告書を作製することに尽力します。「マスターズクラブ」、「ユース栃木」の活動も充実しつつあります。今後とも継続して楽しい山行をお願いします。また支部会員の個人山行もそれぞれの所属の活動として行っており、その一部は役員会や総会で紹介しました。ボランティアや文化活動も会員の個人的な業績として各方面で紹介されております。益々の活躍を期待しています。
- 2023年度に向けては、世の中の状況と登山界の傾向を的確に判断して、より一層工夫をこらしながら会員同士の情報交換を推進し「栃木支部会員で良かった、楽しい!」という雰囲気醸成しながら、クラブライフを充実させていきたいと思っております。会員の皆様の積極的な参加をお待ちしています。
- この1年間で、悲しい出来事もありました。2022年5月には山本武志氏、2023年1月2日には森元一氏のお二人が逝去されました。お二人とも支部活動に大いに貢献していただきました。共に亡くなる直前まで支部活動にお元気に参加されていたので、突然の訃報には今なお悲しみは癒えません。心よりご冥福お祈りしています。



# 2022(令和 4)年度活動報告

## ◇◇◇総会・役員会等◇◇◇

### 2022 年度通常総会

日 時：2022年5月21日(土)15:00~17:00

場 所：宇都宮市『コンセーレ』

3F 中会議室

参加者：17名

- 午後3時、定刻通り仙石会員の進行により総会に入り、令和4年度の通常総会の開会が告げられる。支部長挨拶は概ね1・2頁に記載。来賓祝辞は来賓欠席のため割愛。
- 議長選出：事務局より神島会員の議長提案があり、出席者全員の賛成より承認される。最初に総会成立確認が行われた。
- 増淵会員より第1号議案「令和3年度事業報告」、第2号議案「同決算報告及び監査報告」については石澤会員より決算報告、監査報告があり承認される。なお、会計監事の牛窪、桑野の両名が所用にて欠席のため、石澤副支部長が代読した。訂正箇所 令和3年度日本山岳会栃木支部決算 II 特別会計 I 支部周年行事基金 (1) 収入合計 576,439円 内訳 繰越金 574,442円→574,435円に訂正 雑収入 2,017円→2,004円に訂正
- 第3号議案「令和4年度事業計画」は稲葉会員より提案され、一部訂正の後に承認された。
- 第4号議案「令和4年度予算案」については石澤会員より提案され承認される。
- 第5号議案「令和4年度支部役員案」が事務局より提案され承認される。
- その他について。各種通知や返信については、デジタル化に伴って紙媒体をやめてはどうかとの提案がなされたが、支部会員の実情などを考慮すると時期尚早のようであるので、当分は今の情報発信の方法を継続することとし、将来的には、デジタル化を推進するようにする、との回答があった。
- 仙石会員が閉会の言葉を述べて総会は終了。

○続いてプロジェクター使ったの活動報告会となる。下記の支部活動、個人山行を素晴らしいスライドで紹介しながら貴重な報告をしてもらう。支部通信ですでに紹介した山行であるが、スライドを使っただけの報告はやはり素晴らしい。今回は時間に限りがあったので、次回からは余裕を持った時間帯で開催したいとの思いを強くした。

- (1) マスターズ山行報告(長、菱田)
- (2) ユース夏山、穂高・槍縦走報告(荒井)
- (3) 古道調査中間報告(支部長)
- (4) 梅海新道山行(猿山)
- (5) 九州の山など(仲島)

○その後、「懇親会」を開催。久しぶりの登山談議に花が咲いた。



## 第1回役員会

日時：2022年4月3日(日)17:00~19:00  
場所：宇都宮市『コンセーレ』

- コロナ感染対策を行いながら、久しぶりに対面での役員会を実施した。
- 主な議題は、令和4年度の通常総会に関する事項について協議した。
- 令和3年度の事業報告及び会計報告に関する事項、令和4年度の事業計画に関する事項、総会の持ち方について(日程、内容等について)協議した。
- 1月29日に予定した「小島守夫さんを偲ぶ会」が中止になり、4月9日に蔵書の形見分けをすることになっているとの報告あり。

## 第2回役員会

日時：2022年5月21日(土)14:00~15:00  
場所：宇都宮市『コンセーレ』11名

- 総会の持ち方の再確認をする。加えて6月から7月の行事に検討する。

## 第3回役員会

日時：2022年7月3日(日)17:00~18:00  
場所：宇都宮市『コンセーレ』  
出席者：支部役員及び関係委員11名

- マスターズクラブの6月山行、日光清掃登山、支部報「追悼集」、故坂口三郎顧問「偲ぶ会」についての報告がある。
- 親子登山教室、夏山山行、マスターズクラブ山行、栃木ユース山行、古道プロジェクト等について協議する。

## 第4回役員会

日時：2022年8月21日(日)17:00~18:30  
場所：宇都宮市『コンセーレ』  
出席者：支部役員及び関係委員12名

- 親子登山教室については、下見は実施したが、コロナ第7波のため中止。古道調査、ユース夏山山行の報告がある。

- 夏山山行計画、那須岳クリーンキャンペーン計画、古道調査計画、マスターズ山行計画、山のお天気講座について協議する。
- 日山協主催「坂口三郎さんを偲ぶ会」の案内がある。また栃木支部主催の「坂口三郎さんを偲ぶ会」、秋山山行計画についても内容を検討する。
- その後はプロジェクター使ったの活動報告会となる。ユース夏山、荒井委員の穂高岳山行、仲島委員の利尻・礼文山行の映像報告があった。

## 第5回役員会

日時：2022年9月23日(金)17:00~18:30  
場所：宇都宮市『コンセーレ』  
出席者：支部役員及び関係委員11名

- 議題は、山の天気ライブ授業、坂口三郎氏とのお別れ会、4支部合同懇談会、会津側の古道調査、秋山山行計画案他であった。
- 会議終了後に、夏山山行・懇親会の映像報告会を行った。

## 第6回役員会

日時：2022年10月22日(土)17:00~18:00  
場所：宇都宮市『コンセーレ』  
出席者：支部役員及び関係委員

- 山の天気ライブ授業と古道調査(会津中街道)の報告があった。
- ついで坂口三郎氏のお別れ会、秋山山行、4支部合同懇談会の確認、さらには冬山山行・新年会、山の講演会、ヒマラヤの集い、マスターズ計画案等について協議した。

## 第7回役員会

日時：2022年12月18日(日)17:00~18:00  
場所：宇都宮市『コンセーレ』  
出席者：支部役員及び関係委員10名

- 冬山山行・新年会、「山」の講演会、ヒマラヤの集い、マスターズ計画、ユース計画、栃木県「山の日」講演会等、今後の行事予定について協議した。

## 第8回役員会

日時：2023年1月28日(土)15:30~17:00  
場所：大田原市佐久山温泉『きみのゆ』  
出席者：支部役員及び関係委員 11名

- 安戸山から下山後、宿泊先の『きみのゆ』にて開催。翌29日(日)の山行の確認、今後の事業計画について協議した。

## 第9回役員会

日時：2023年2月26日(日)12:30~13:30  
場所：宇都宮市『コンセーレ』  
出席者：支部役員及び関係委員 10名

- 「山」の講演会の最終打合せ、今後の事業計画等について協議した。

## 第10回役員会

日時：2023年3月26日(日)12:00~13:00  
場所：宇都宮市『コンセーレ』  
出席者：支部役員及び関係委員 11名

- ヒマラヤの集いの最終打合せを行い、今後の事業計画等について協議した。



総会風景

# ◇◇◇各種山行等◇◇◇

## 春山山行

期日：2022年4月3日(日)  
場所：日光市鳴虫山(1104m)  
参加者：渡邊、石澤、増淵、菱田、村田  
仙石=登山行動はせずに出発地で待機  
行動概要：  
上今市駅前杉並木公園 P8:00=(仙石車・石澤車)=  
登山口 8:30、8:40 発…独標(925m)9:20、9:30 発…  
合方(1084m)10:05~10:15…鳴虫山(1104m)10:40  
~11:20…独標12:00~12:10…登山口12:30=杉並  
木公園 P13:0、解散

- 東武日光線上今市駅前杉並木公園駐車場に予定通り8:00に集合し、仙石車(菱田、村田同乗)及び石澤車(渡邊同乗)にて8:05出発。憾満ヶ淵公園駐車場に駐車予定だったが、鳴虫山登山口まで行く。登山口着8:30。仙石氏は登山行動をせず待機するため、石澤以下4名で8:40出発。登山口周辺にはミツマタが群生しており楽しませてくれた。ヒノキの作業道を進み登山道に入る。途中小休止をして9:20独標(925m)に到着。ここまで結構な急登であった。10分程休憩し9:30出発。10:05合方(1084m)到着。日光方面が眺望でき高度を稼いだことが分る。小休止の後10:15出発。階段の急登をあえぎながら登り10:40鳴虫山(1104m)山頂に到着する。展望台の櫓がなくなっていた。雪が舞ってきたりして、さすがに寒かった。ここで昼食にする。ここまで頂上直下で1パーティ4人にあってだけで静

かな山行であった。頂上で休憩中2パーティが登ってくる。このうち宇都宮と古河市から来た女性にシャッターを押してもらったことをきっかけに2人と話をするうち、どこか良い山岳会がないかとのことで我々山岳会のHP等を紹介する。11:20頂上を出発し下山にかかる。独標着12:00。10分程小休憩し12:10出発。さすがに下りは早い。先ほど2人組と後になり、先になりながら下山し仙石氏に迎えられ12:30登山口到着。ここで渡邊支部長から登山終了を宣言していただき、12:35登山口を出発する。13:00上今市駅前杉並木公園駐車場に到着、小雨模様になる。本格的に雨になる前に無事山行を終了できラッキーであった。ここで解散する。



山頂への急な登り



鳴虫山の山頂にて

## 日光清掃登山(栃木県岳連との共催) 【山の日制定プロジェクト】

日時：2022年7月3日(日)

場所：日光湯元ビジターセンター、高山

参加者：石澤、菱田、大島、村田、林、麦倉

(ゲスト)板橋夫妻、林夫人、麦倉夫人

行動概要：湯元 8:00…赤沼 P8:20…高山登山(竜頭の滝上) 8:40…高山山頂 9:35~10:10…熊窪分岐 10:40…幕張峠 11:00…赤沼 P11:30、解散

- 当日7時半、日光湯元のビジターセンター前広場で清掃登山の開会式。栃木岳連自然保護委員会の江崎委員長挨拶、さらに岳連会長の石澤本支部副支部長が挨拶。さらに共催団体の本支部渡邊支部長より、山の日啓蒙活動とその意義についてふれたい挨拶がある。
- 開会式終了後、本支部会員とゲストは、本日の行動予定を確認し、出発地の赤沼駐車場へ移動する。出発前の集合を済ませて、本日の行動確認後、渡邊支部長の見送りを受けながら、のんびり親子登山教室の下見を兼ねて一行は登山行動を開始する。戦場ヶ原をかすめるように、湯川沿いの道を石楠花橋、竜頭の滝の上に歩を進める。日差しが出る中、樹林の中を、朝の空気を吸いながら気持ちよく歩く。
- 滝上についていよいよ高山の登山口に達する。ここで水分補給をしながら小休止をとり、これからの登り道に備える。高山への登りは、最初は1606m峰の巻道を進みながら、皆ペースを合わせて確実に登っていく。そこから、峠までの登りを少し汗ばみながら標高を上げながら登ると、風が涼しい峠にたどり着く。中禅寺湖からの風が涼しく、そこで休憩をする。しかしその涼しい風は、この後の天候の変化の前触れとなる。その後、高山への登り道を、涼しさに助けられて快調に登り、高山山頂にたどり着く。山頂では、小雨が降るが、まだそんなに悪い天気では無い。しかし頂上手前から、群馬県側の方向より雷鳴が響くようになり、今後の天候の悪化を予感せざるを得ない状況となってきた。
- 休憩して皆水分やエネルギーを補給して、天候悪化を心配しながらの下山にかかることとなる。下山し始めるとほぼ同時に雨が降り出してくる。熊窪分岐手前では雷鳴とともに雨も非常に強くなり、皆で雨具を着る。雨装備で下山を続けるが、雷鳴は少しずつ近づくような気配となる。樹林の中を雨に打たれて、雷鳴を聞きながら幕張峠にたどり着く。この天候で、小田代ヶ原に行くことも難しいと判断し、そこからは計画を変更してそのまま車道をたどり、赤沼へ戻るこ

とにする。激しい雨に、皆ずぶ濡れになりながらも久しぶりの涼しさに体を癒やしながら、石楠花橋を超えて11:30過ぎには赤沼駐車場に無事に帰着する。

- 全員で集合して、全員の無事を確認し、それぞれの労をねぎらいながら登山行動を終了する。後半は天気の悪化があったが、皆高山の登りを頑張り、下りも雨の中であったにもかかわらずスリップも無く、けがなどもなく無事に終了できた。何と言っても、下界の暑さをしばし忘れることができ、素晴らしい日光の自然を満喫し、ゴミを拾い自然への感謝の気持ちで皆で行動できたことは、参加した人それぞれにとって充実した時間であったのではなかろうかと思う。



## 親子登山教室下見山行

日時：2022年7月16日(土)

場所：日光高山

参加者：3名(渡邊、増淵、仲島)

行動概要：

今市杉並木公園 P7:00 = 竜頭の滝臨時 P7:50、8:05 発  
…竜頭の滝…高山登山口 8:20~25…高山山頂 9:45  
…熊窪分岐…幕張峠…小田代ヶ原バス停 11:15~50  
…しゃくなげ橋…竜頭の滝…竜頭の滝臨時 P13:50  
=今市杉並木公園 P14:50、解散

- 本支部では、恒例の第10回目の親子登山教室を7月23日に奥日光の高山・小田代ヶ原周辺で実施する予定をたて、参加者も確定して準備万端整い、最終段階の下見山行を行った。
- 下見も後述するように十分に行い、後は実施当日の好天を祈るばかりとなる筈であった。ところが7月21日にコロナ第7波の報道!!今回は特に子どもたちへの感染が多いということで、急遽実施を見送らざるを得なくなった。「山の日」記念事業として計画した事業なので、下見山行だけの報告となる。

○今回の親子登山教室は、高山に登り小田代ヶ原を巡るコースで計画を立てた。スタッフ陣は昨年協力していただいたメンバーにお願いし、下見登山は、7月3日(日)「山の日」記念行事の日光清掃登山を兼ねたメンバーと、本日の3人の2班に分けて実施した。

○例年より22日も早い6月27日に梅雨が明け、毎日暑い日が続いていたが、奥日光の山は涼しい風が吹き、気持ちの良い朝となった。集合場所は竜頭の滝臨時駐車場で、菖蒲ヶ浜スキー場の跡地。高山登山口の滝の上駐車場は狭く、駐車できない可能性が高いためである。

○竜頭の滝をゆっくり眺めながら登り、高山登山口で息を整え出発する。鹿よけ柵の中に入り尾根に出ると、木の葉の間から左側は中禅寺湖、右側は戦場ヶ原がなんとか眺められる。尾根通しに小さなアップダウンを繰り返すと1565m付近になる。この辺で、休憩と地図の読図学習するのは如何であろうか？

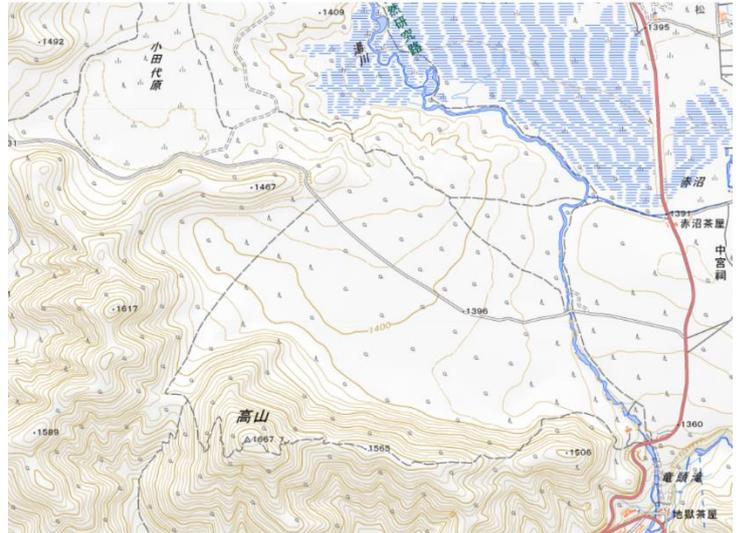
○9:45 高山頂上着。昼食場所をどうするか考えながら、このコース一番の危険箇所、急な斜面の下りにかかる。鎖場も過ぎ30分程で熊窪への分岐に到着。ここで左に進み、熊窪から中禅寺湖畔を歩くコースを考えていたが、時間オーバーも予想されたため、右コースを選択。まもなくゆるやかな斜面に美しい白樺林となり、道路に合流、幕張峠となる。電気バスが走る道を10分程歩き、トイレのある小田代ヶ原バス停に11:15に着き、木のテーブルで昼食タイム。

○小田代ヶ原トイレから先のコースは未定だったが、せっかくなので小田代ヶ原を周回するコースを選ぶ。貴婦人と呼ばれる白樺を目視すると、山頂を隠す灰色がかった雲、青く見える男体山の山肌、木々の葉の緑、白い幹と、薄いピンク色が広がるその美しい光景に目を奪われる。ピンク色の植物は何だろう？ホザキシモツケが群落を作っていることに気づく。ノアザミも一面に咲き、ニッコウキスゲやアヤメも咲いている。この景色を皆さんに見てもらいたいと強く思った。日陰にある木道はぬるぬる滑り要注意だが、アザミの蜜を吸うヒョウモンチョウ(種類の区別ができません)などの昆虫や小鳥のさえずりに、豊かな自然を感じた。

○しゃくなげ橋を渡り、湯川沿いのハイキングコースも快適で、あっという間に竜頭の滝に戻ってきた。親子登山教室のコースとしては入門コ

ースの位置づけになるが、内容の濃い学習ができるコースだと思う。

○ところが残念ながら、新型コロナ肺炎の猛威が第7波として立ち上がり、安全第一を考慮し、中止と決定。来年こそ親子登山教室が実施できますように！！



## 夏山山行

期日:2022年8月27日(土)~29日(月)

場所:尾瀬沼周辺、及び燧ヶ岳

参加者:渡邊、高野、長、菱田、猿山、石井、大島、村田  
(ゲスト)内山昭夫、神長善次、神長純江、  
斎藤一興、藤川裕子

行動概要:

○8/27(土)曇り:会津鬼怒川線「上三依塩原温泉口駅」  
11:00=御池 P12:50、13:10 発=沼山峠登山口 13:40  
…大江湿原 14:30…長蔵小屋 15:00

○8/28(日):曇り時々小雨、夕方から晴れ

【A隊:渡邊、菱田、村田、斎藤、高野】長蔵小屋 7:00…  
4合目(1900m)8:40…ミノブチ岳 9:30…俎嵯  
(2346m)10:05…柴安嶺(2356m)10:50~11:05…美晴・  
沼尻分岐 13:20…沼尻平 14:45…長蔵小屋 15:35

【D隊:猿山、大島】俎嵯まではA隊に帯同…御池へ下  
山開始 10:30…熊沢田代のテラス 11:20…広沢田代  
12:00…御池P着 12:45=上三依塩原温泉口 14:50

【B隊:石井、内山、神長善次、神長純江】長蔵小屋 7:10  
…沼尻休憩所 8:30…見晴 10:45~11:10…温泉小屋  
12:15…三条ノ滝 13:50~14:25…第二長蔵小屋 16:15

8/29(月)起床 5:00…白砂峠 7:00…

沼尻休憩所 8:30…長蔵小屋 10:20

【C隊:長、藤川】B隊と一緒に長蔵小屋 7:10…沼尻休  
憩所 8:30…見晴 11:00…15:20 長蔵小屋

○8/29(月):晴れ

C隊・村田が長蔵小屋発 10:00、残りのA隊はB隊の  
第二長蔵小屋からの到着を待って 11:00 発…沼山峠  
登山口 12:05、バス乗車=御池 P12:35 着、解散

【第1日:8月27日(土)曇り】

○11:00 会津鬼怒川線「上三依塩原温泉口駅」に高  
野を除く12名が集合、御池駐車場まで4台の  
車で計画輸送をした。12:50 御池駐車場に着き、  
高野と合流。各自身支度をし、13:10 発の沼山峠  
休憩所行のシャトルバスに乗り込む。13:40 沼  
山峠登山口から登山開始。ゆるやかで短い行程  
なので、道端の花などを見ながらのんびりと木  
道を歩く。14:30 大江湿原に出る。ミヤマシ  
ウドやオクトリカブトなど多くの花が咲き乱れ  
ており、尾瀬に来たという実感が湧く。右手に  
は燧ヶ岳がシルエット状に見えた。15:00 尾瀬  
沼湖畔の長蔵小屋に着く。我々が宿泊するのは  
長蔵小屋別館。豪華な夕食(ハンバーグステー  
キ)をいただき、綺麗な風呂に入り、翌日の行動  
に備えて懇親会を早々に切り上げて、就寝した。  
夏の尾瀬とは思えないほど人が少ない。新型コ  
ロナウイルスの影響はここにも大きく出ている。

【第2日:8月28日(日)曇り時々小雨、夕方から晴れ】

○4隊に分かれて、行動する。A隊(渡邊、菱田、  
村田、斎藤、高野)5名 7:00 D隊とともに、  
長蔵小屋を出発し、燧ヶ岳を目指す。浅湖(あざ  
み)湿原の手前から長英新道に入った。しばらく  
はゆるやかな登りが続く。道端にリンドウが  
多くあったが、標高の低い所から高い所まで、  
つぼみであった。8:40 4合目(1900m)手前で  
小休止。そこからは電波が通じた。9:30 ミノブ  
チ岳に到着。開けて視界がきく場所であり、霧  
が流れてたまたま日光白根山まで見渡せる瞬  
間があった。燧ヶ岳山頂(俎嵯)(まないたぐら)  
(2346m)がすぐ目の前に見える。もうひと頑  
張り。10:05 俎嵯に到着。小さな祠がいくつかあ  
る。霧で周囲は全く見えない。30分ほど休憩し、  
D隊と別れて、双耳峰である燧ヶ岳のもう一つ  
の頂上、柴安嶺へ向かう。10:50 柴安嶺(2356m)  
に到着。「燧ヶ岳山頂」と書かれた墓石のような  
標柱があった。ここも霧の中。11:05 見晴新道  
を下る。雨で滑りやすい岩場、田んぼのようにな  
った泥濘地を難儀しながら下って行った。  
13:20 見晴と沼尻の分岐に出た。ここから沼尻  
まではゆるやかな登り基調の道。木道が濡れて  
とても滑りやすく、注意を払いながら進んだ。  
14:45 沼尻平に着くが、ここの休憩所は休業中  
だった。空気が冷えてきたために水面から立ち  
のぼる靄がきれい。15:35 長蔵小屋に帰着。C  
隊は先着していたが、B隊は未着。この日も豪  
華な夕食(チキンの香草焼き)をいただいた。  
夕食を食べるところから天気は回復し、夕日がと  
てもきれいで、食後の散歩を楽しんだ。

○D隊(猿山、大島)2名 燧ヶ岳山頂(俎嵯)(ま  
ないたぐら)(2346m)まではA隊に帯同。10:30  
御池へ下山開始。雨で滑りやすくなっている岩  
礫帯を慎重に下った。以前は雨水で深くえぐら  
れた雨樋状の悪道で、ぬかるみに足を取られ苦  
戦した記憶がある。が、今はすぐ脇にガレた道  
が開かれ歩きやすくなっていた。看板やテープ  
に注意しながら旧道の沢に迷い込まないように  
注意が必要。11:20 6合目のプレートを通り、  
熊沢田代の二つの大きな池に挟まれたテラスで  
小休止。霧雨の中、視界が開け幻想的な美しさ

を堪能できた。会津駒ヶ岳もチラ見できた。木道以外は水浸しになっていた。12:00 広沢田代。近くの池がなぜか乳白色になっていた。火山活動の前兆か。木道は所々修繕されているが、大部分は朽ちかけていて、階段の踏み板もなく危険な箇所が目立つ。沢筋の道は前夜からの雨で水が勢いよく流れ落ちていた。12:45 御池着。8月最後の日曜日の昼間なのに広い駐車場に車はまばら。駐車料金は千円。帰路、道の駅尾瀬檜枝岐に立ち寄り、おじさん 2 人でカップアイスを食べながら絵画鑑賞をした。国道 352 号沿いは蕎麦の花が満開でカメラマンの姿が見られた。14:50 上三依塩原温泉駅解散。竜王峡のバイパスは無料になっていた。

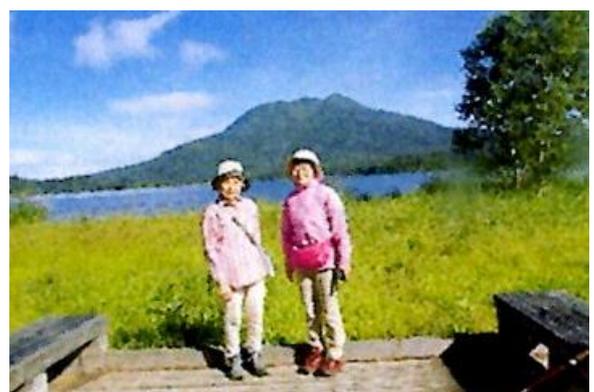
○B 隊：石井、内山、神長善次、純江 7:10 A 隊、D 隊よりやや遅れて、C 隊とともに玄関前のヤナギランに見送られて長蔵小屋を出発する。雨はパラつく程度。8:30 沼尻休憩所。濡れた木道を慎重に白砂峠を越える。10:45~11:10 見晴到着。山小屋は 6 軒営業中。昼食休憩する。C 隊は長蔵小屋へ戻る。12:15 温泉小屋、赤田代は歩きやすい木道、写真を撮りながら湿原の花に癒される。13:50~14:25 三条ノ滝。展望台への登山道の手すり撤去の作業予定 10 月以降間近に見られなくなるそうだ。豪快に水しぶきをあげているのを見られて良かった。16:15 第二長蔵小屋。日没を考えながら長蔵小屋まで距離 7.2km、標高差 250m、コースタイム 3:25 時間を検討、4 名の疲労度、滑りやすい木道をヘッドランプ使用では危険と判断する。小屋のスタッフに連絡をとってもらい宿泊とする。8 月 29 日 (月) 5:00 起床。快晴、朝もやに浮かぶ下田代散策、感激する。7:00 白砂峠を越え、尾瀬沼北岸、長英新道分岐をたどる。8:30 沼尻休憩所。10:20 長蔵小屋で待つ渡邊支部長、皆様方の温かな出迎えに感謝の気持ちで胸が一杯になった。

○C 隊：長、藤川 8 月 28 日朝は B グループと一緒に行動することで出発。とても滑りやすい木道は 2016 年の高い木道から低くなっているので少しは安心して歩けた。左に優雅なガスが掛かっている尾瀬沼を見る。沼尻休憩所はしま

っていた。そこから登りが始まり、白砂乗越からは下りが始まり、U 氏が端を歩いて滑ったのを見て慎重に真ん中を歩く。我々二人はあと 1~2 カ月で 80 歳と 81 歳になるで、転べば骨折と医者に驚かされている。見晴らしにやっと 11 時過ぎに着く。B グループは長蔵小屋のおにぎりを食べていたが、我々は水分が有る食事がしたかったが、尾瀬小屋はうどん、蕎麦等なくスパゲッティ、ウインナーソーセージ等若者向けのメニューだ。やっと鹿肉の水餃子を薦められて食べたが美味しかった。B グループは 11:30 に三条ノ滝を目指して出発していく、が私たちは 16 年温泉小屋へ泊って滝を見て御池に下ったので止めた 12:00 に出発して K 氏の真似をして大木の撮影、湿原の撮影など尾瀬を十分味わって 15:20 に長蔵小屋へ着いた。

### 【第 3 日：8 月 29 日(月)晴れ】

○朝から良く晴れて、尾瀬沼、燧ヶ岳がとても美しかった。♪夏がくれば 思い出す はらかな尾瀬 遠い空♪とつい口ずさんでしまいそうな景色。10:00 C 隊及び村田が長蔵小屋を沼山峠休憩所に向けて出発した。11:00 残りの A 隊は B 隊の第二長蔵小屋からの到着を待って出発した。12:05 全員無事に沼山峠休憩所に揃った。12:20 発御池駐車場息のバスに乗った。御池駐車場で解散した。





御池、出発前



大江湿原



ミヤマシシウド



長蔵小屋



長蔵小屋前



長蔵小屋別館





燧ヶ岳山頂（組嶺）



広沢田代



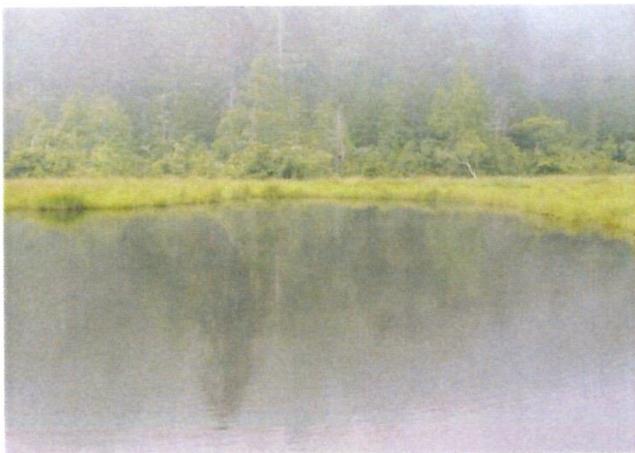
広沢田代～御池



ヒメウメバチソウ



モミジカラマツ



## 第43回那須クリーンキャンペーン

日時：2022年9月4日(日)6:30～  
場所：那須、峠の茶屋園地、茶臼岳周辺  
主催：栃木県山岳・スポーツライミング連盟  
共催：日本山岳会栃木支部、栃木県勤労者山岳連盟、栃木県山の日協議会  
行動概要：啓発活動 登山指導所前 6:30～  
ロープウェイ山麓駅 8:30  
開会式(峠の茶屋P) 7:30  
参加者：石澤、仙石、増淵、猿山、菱田、林、後藤、  
吉澤、渡邊、ゲスト2名  
【27団体、総数170名】

○本事業はコロナの関係で2年間実施できなかったが、3年ぶりに再開できた。開会式では、「継続した自然保護活動をとおして、美しい自然を後世に伝えていくことの大切さ」、「山(自然)に関心を持ち、山のことを考える山の日」の意義「ウイズコロナ・ポストコロナの登山」、などを確認しあった。山では昼近くには霧も晴れ晴天となった。山頂には多くの登山者が昼食や休憩をとっていた。コロナの関係でマスクのゴミが多くみられた。回収や廃棄には十分な注意を払った。峠の茶屋跡避難小屋で、携帯トイレの使用法や山でのトイレマナーについて啓発を行った。山中に排泄後のティッシュが数か所あった。可能なものは埋めたが、不可能なものは厳重に包装して回収した。参加者全員、那須山中にトイレ設置の必要性について確認しあった。登山者のマナーが向上したので、山中に故意に捨てられたゴミはほとんどない。峠の茶屋駐車場周辺に、空き缶やポリ袋のゴミ、たばこの吸殻が数件見られた。本事業は、那須町役場・那須ロープウェイ・旅館ニュー大高、鹿の湯、小鹿の湯、那須ビジターセンター、環境省日光国立公園那須管理事務所等地方の諸機関や事業所の全面的な協力を得て実施した。【栃木県山岳・スポーツライミング連盟 自然保護委員長 江崎裕之】



茶臼山頂付近でのマスクゴミ回収



峠の茶屋跡避難小屋付近の作業



峠の茶屋跡避難小屋での携帯トイレ啓発の様子



開会式後の集合写真

## 日本山岳会 120周年記念事業 山の天気ライブ授業

日時：2022年10月1日(土)～2日(日)  
場所：講義・懇談会・宿泊「星降る学校くまの木」  
現地学習(観天望気)ミツモチ山  
講師：猪熊隆之気象予報士  
参加者：会員8名、一般13名、計21名

### 【第1日：10月1日(土)】

- スタッフ(支部会員)集合 12:00、会場設定、受付準備等の作業を行い 13:00 から受付、申込者全員の参加を得た。13:30 菱田会員の進行、渡邊支部長の開会挨拶、講師紹介を行い、早速に猪熊講師による机上講習が始まった。スライド122枚をパワーポイントで写し、大変分かり易く、説得力のある百戦錬磨の話術で、時間が過ぎるのを忘れさせるのはさすがである。
- 講習の内容は、1. 山の天気の基本、2. もっとも怖い気象遭難・低体温症の事故、3. 落雷と局地豪雨から身を守る 4. 栃木県の気象遭難、5. 気象遭難を防ぐための方法、などで大変勉強になった。予定の17時にはびたりと講習が終了した。猪熊講師が持参した著作の「山岳気象大全」や「山の観天望気」等もサイン入りで販売も行い、更に勉強への意欲が高まった。
- 夕食、入浴後には懇談会を開催し、参加者の自己紹介や山談議に盛り上がった。

### 【第2日：10月2日(日)】

- 快晴の朝を迎えた。朝食後、車に分乗して県民の森キャンプ場駐車場へ移動 8:10。まず、猪熊講師から本日の実習である観天望気の説明を受け、ミツモチ山へ向けて出発した 8:40。無風快晴のあいにくの天気?になってしまったため、目的のいろいろな雲を見ることはできないが、空の様子を見るにあたっての留意事項や高原山の気候の特色などの話を聞きながらゆっくりと登山した。第一展望台、第二展望台を経て、ミツモチ山の山頂近くになると空も開け、飛行機雲がくっきり、更には遙か天空には巻雲が幾筋か現れた。雲を観察する会なので、講師も思わず歓喜の声をあげた。山登りに来ていて、雲を発見して感動するとはめったにないこと

である。講師の説明にも気合が入り、ミツモチ山到着 11:10。残念ながら山頂の展望台は工事中で立ち入り禁止となっていたため、山頂直下の広場で昼食をとりながら山の天気談義、11:40 山頂を後にした。下山中も講師から有意義な説明を受け、無事に駐車場に到着。講師から指導講評をいただき、13:40 閉会とした。

- 実施期日が講師の都合で栃木国体開会式当日と重なってしまい、県内の山岳愛好家には大変残念な思いをさせてしまった。しかしながら、参加者にとってはほどよい人数で、講師からしっかりと指導を受けることができた良い機会でもあった。今後とも、山の天気に関心を持っていただき、安全登山の実践につなげてほしいものである。本支部の参加者はスタッフとして活躍いただき、大変ありがたかった。本支部員の心意気に感謝したい。



参加者集合  
「星降る学校くまの木」にて



ミツモチ山にて

## 秋山山行・懇親会

期 日:2022年11月5日(土)~6日(日)

場 所:磐梯山及び西吾妻山

参加者:増淵、渡邊、斎藤、高野、菱田、猿山、林夫妻

行動概要:

○11/5(土):増淵車で宇都宮 IC 発 6:30=白河スマート IC 下車=八方台登山口 9:00、発 9:25…弘法清水・岡部小屋 11:10…磐梯山山頂 12:00…八方台登山口 14:30=民宿やまき屋

○11/6(日):(増淵、渡邊、斎藤、高野、菱田、猿山)  
民宿やまき屋 7:30=ロープウェイ駅 8:30~山頂駅(1390m)、発 8:45…9:20 西大嶺分岐…西吾妻小屋 11:15…天狗岩・吾妻神社…西吾妻小屋 11:50…西吾妻山山頂 12:05…山頂駅~ロープウェイ駅 14:50= 矢板スマート IC=宇都宮 19:10、解散

### 【第1日:11月5日(土)】

○今回も秋山山行のリーダーは増淵会員。宇都宮集合の参加者は、増淵会員の御親族の土地に駐車させていた。だき、増淵車で宇都宮 IC を計画どおり 6:30 出発。紅葉狩りで日光方面ははやくも混雑している模様だが、福島方面は快晴の下、快適に走行し白河中央スマート IC で高速を降り、猪苗代湖東岸を通り、裏磐梯高原から磐梯山ゴールドラインで、八方台登山口に 9:00 着。トイレ完備の広い駐車場はほぼ満車状態だが、高野会員と林夫妻は先に到着していた。

○軽い打ち合わせ後、登山届を提出して 9:25 出発。駐車場は標高 1194m で 1819m の磐梯山山頂まで標高差は 625m。踏破距離 7.5 km でピストンの一番楽チンなコース。建物が荒れ果てた中ノ湯までは広くなだらかなブナ林の心地よい登山道が続く。中ノ湯の気象観測ポールが立つ丘に登ると磐梯山全景の見晴らしがよい。標高 1500m 以上になると登山道はブナやダケカンバのトンネルで、発達した透明なエビの尻尾が太陽に照らされて落ちていた。きらきら光りながらお舞い落ちる霧氷と青空のコントラストが奇跡のように美しかった。11:10 弘法清水の岡部小屋に立ち寄り休憩させていただいた。暖かいお茶のサービスを受けた。小屋の前で滴り落ちる弘法清水の湧き水で淹れたお茶と思うと尚更ありがたい。12:00 磐梯山山頂。山頂で雲が途切れるのをしばらく待った。時々眼下に輝く猪苗代湖が見えたが、すっきり晴れることはなかった。往路と同じルートを下山。八方台登山口 14:30 着。林夫妻は日帰りで参加のためここでお別れ。

○宿に向かう途中、翌日の西吾妻山の登山口偵察のためグランデコに立ち寄った。スキー場のリフト乗り場手前で分岐する吾妻山(小野川)林道からゲレンデ内より山頂駅方面へ向かうスキー場作業道を利用して登山口まで登ることができるかとみていたが、スキー場に進入禁止の表



中ノ湯跡



磐梯山山頂



霧氷風景



弘法清水の岡部小屋



磐梯山山頂

示が置かれていたのでロープウェイを使うことに決めた。

- 宿は JAC 福島支部にご紹介いただいた民宿やまき屋。入浴は 24 時間可能。全国旅行支援割が利用できお得に宿泊できた。宿のすぐ近くに紅葉の名所、土津（はにつ）神社がある。会津藩主松平氏の祖・保科正之を祀った神社で、会津藩主松平家の墓所もある。真っ赤な紅葉がライトアップもされ大勢の人が訪れていた。

### 【第 2 日：11 月 6 日(日)】

- 本日の西吾妻山登山の参加者：増渕仁一、渡邊雄二、斎藤一興、高野正道、菱田克彦、猿山浩

- 7:30 宿発。高野車、増渕車を西吾妻山の南麓のグランデコスノーリゾートの駐車場(1010m)に止め、8:30 裏磐梯ロープウェイで標高 1390m の山頂駅まで上がった。スキーのオフシーズンなので、駐車料は無料。ロープウェイの料金は往復でも片道でも 1800 円だったが、旅行支援のクーポン 1000 円分が使えたので、往復で 800 円。8:45 山頂駅出発。展望は良く安達太良山まで見えた。9:20 リフトほぼ 1 本分スキー場内を登り、西大巔への分岐に到着。ここからは樹林の中の岩だらけの登山道に入る。西大巔まではほぼ直登、そして急登。途中からは冬山。気付けば足元は霜柱から雪に変わっていた。西大巔山頂からは磐梯山、猪苗代湖まで一望できるのだが、ガスが抜ける瞬間、時折視界が開けるだけだった。注意しなければならないのは、山頂から西吾妻山への登山道が稜線上でなく、登ってきた道を一旦下りてトラバースすること。植生の保護のためだろうか。11:15 西吾妻小屋着。小屋で休憩中に菱田会員は天狗岩、吾妻神社を往復した。11:50 全員そろったところで小屋を出発し、15 分ほどで西吾妻山山頂(2035m)に到着した。日本百名山なのになだらかなその山頂からの展望は樹林に囲まれ全くない。復路では雪の積もった木道、滑りやすい石、急斜面の粘土、泥濘との戦いだった。ガイドブックでは初心者向きとなっているが、下山で地味に苦しめられた。この時期、山麓は紅葉が見事で、山頂付近は霧氷と樹氷が見られ、素晴らしい山行になった。山頂駅に戻ると小さな子どもたちが、設置してあるトランポリンで楽しそうに遊んでいた。14:50 ゴンドラを降りて登山終了。

- もう 1 泊する渡邊支部長と高野会員、帰路に就く栃木組、2 台に分乗して、グランデコを後にした。栃木組は渋滞を回避して、矢板北スマートインターで高速を下り、19:10 無事、宇都宮に戻り、解散した。日本百名山 2 座をのんびり 2 日間で登る紅葉狩りの秋山山行の計画が、思いもよらず冬山登山のようになってしまったが、楽しい思い出になった。



民宿やまき屋



西吾妻小屋



西吾妻山山頂にて



西吾妻山

## 坂口三郎氏とのお別れ会

日 時：2022年11月3日(木)

場 所：コンセーレ大ホール

参加者：48名(本支部15名、他県内岳人)



石澤委員長挨拶



参加者の集合写真

- 本支部、栃木県山岳・スポーツクライミング連盟、宇都宮山岳会の共催で開催された。

## 4支部合同懇談会

期 日：2022年11月26日(土)～27日(日)

場 所：群馬県高崎市、榛名山

参加者：渡邊、石澤、仙石、増淵、長、仲島(総勢35名)

行動概要：

○11/26(土)：高崎市内で講演会＝ホテルにて懇親会

○11/27(日)：榛名山登山

- 11月26日(土)は「シカ・ヤマビル・マダニの話」と題した講演会が開かれた。講師は坂庭浩之氏(群馬県林業試験場上席研究員、獣医)であった。ホテルに会場を移して懇親会があり、各支部の活動報告やアコーディオン奏者の Rinn さんの山の歌を中心としたミニコンサートもあり、和気あいあいとした懇談会となった。
- 11月27日(日)は榛名山登山組と、白衣観音等を巡る観光組に別れて楽しんだ。
- 詳細は、「山」12月号参照。



4支部懇談会のホテルにて

## 支部連絡会と晚餐会

期 日：2022年12月3日(土)10:00～

場 所：京王プラザホテル

参加者：渡邊

- 京王プラザホテルにて支部連絡会が開催された。本支部からは、渡邊支部長が出席。メインのテーマは、「JAC 会員の交流の促進について」で、ユース交流会や各支部の交流活動が紹介された。その他、各支部が所有する宿泊施設の紹介と利用案内、古道調査の現況報告などであった。午後からは、海外登山の報告があり、17:00から晚餐会が行われた。詳細は、「山」12月号参照。



榛名神社にて



榛名湖畔にて(浅野茨城支部長と)

## 冬山山行・新年会

期 日:2023年1月28日(土)~29日(日)  
場 所:安戸山(やすとやま)、御亭山(こてやさん)  
宿泊・新年会は「きみのゆ」  
参加者:石澤、渡邊、増淵、仙石、神島、後藤、菱田、大島、  
林、前田洋子、仲島、荒井  
(ゲスト)鈴木清一、上田景子、藤田礼子  
行動概要:  
○1/28(土):道の駅「湯の香しおばら」集合 8:30…安戸山 12:20~40…墓沼集落 15:00=「湯の香しおばら」=「きみのゆ」  
○1/29(日):「きみのゆ」=頂上緑地公園 9:00=登山口 9:30…御亭山頂上 11:30、解散 11:40

### 【第1日:1月28日(土)】

- 令和5年となり最初の支部行事は多くの参加者を迎えての山行となった。前夜降った雪で集合場所である塩原の道の駅までの道路状況が心配だったが、ほぼ影響もなく皆さん無事集合することができた。
- 本日登る安戸山は標高1151m程ではあるが、前日の雪ですっかり白くなっている。雲が多いものの晴れ間もありこの時期らしい寒さである。道の駅を出発して一面の雪景色を眺めながら登山口へと歩き始める。間もなくして林道に入り、しばらく植林された針葉樹林の中を進むと標高650m付近の鉄塔下が開け、眼下には那須野が原、遠くには雨巻山などの芳賀の山々も見えた。さらに傾斜のゆるい登山道・林道を歩き、標高920m付近から山頂へと続く尾根に取りつく。ここから傾斜がきつくなる上に5センチほど積もった雪の下は落ち葉でさらにスリップしやすく非常に歩きにくい。そんな道と格闘すること約1時間、安戸山山頂に到着。山頂も樹林帯の中はあるが落葉した広葉樹のため木々の間から景色を望むことができた。少し風もあったせいか結構寒く、ウールの手袋一枚で来たことに後悔した。
- 下山は墓沼集落、そこから道の駅まで3キロ以上の舗装路を歩くことになるため、林・荒井の二人は先行して下山、車両を下山口に廻すことにした。二人で歩いた(走った?)舗装路は結構長くて、結果これが正解だった。
- 道の駅に戻り、各々今夜の宿泊場所へ移動、予定していた役員会を済ませ温泉にひたる。低山とはいえ寒い一日だったので冷えた体が温まる。入浴後に懇親会が行われたがここで帰らなければならぬ私(荒井理)を含めた数名は後ろ髪を引かれる思いで宿をあとにした。

○今回宿泊には佐久山温泉きみのゆコテージを利用いただきました。後藤会員の義弟が経営する温泉ですので、宿泊関係は後藤会員が担当させていただきました。食堂での夕食が混雑してご迷惑をお掛けしました。懇親会はコテージで薪ストーブを眺めながら、皆様の差し入れの美味しいお酒を堪能しながら楽しいひとときを過ごすことができました。またのお越しをお待ちしております。

### 【第2日:1月29日(日)】

- 2日目は大田原市の旧黒羽町内にある御亭山(こてやさん 512.9m)に登ることになる。御亭山の名前の由来はよく分からないが、御亭とは「1他人を敬って、その邸宅をいう語。2御亭主の略。」を表す言葉のようである。この山城は昭和52(1977)年に当時の黒羽町(現大田原市)・馬頭町(現那珂川町)の森林1,518haを消失した大火のあった場所で、そのためか山頂付近は大きな木もなく那須野が原から日光連山、富士山、筑波山などが見渡せる絶好の展望の山となっている。
- 登山のメンバーは渡辺、石沢、仙石、神島、後藤の5名。車道から頂上に車を上げ、その後黒羽市街まで後藤車で移動し登山開始となる。登山口付近の家の方に伺って空き地に駐車をした。登山口からは愛宕神社の石段が300段以上続き宴会明けの体には応えてくる。その先は愛宕山、飯縄山、岡沢ボッチ、岡沢の頭、八塩ノ頭を經由して山頂へと植林された平坦な樹林の尾根道を登っていく。途中トレランらしき方を含め2、3人とすれちがったが、静かな山歩きをすることができた。頂上に着いたところ、前田、上田、藤田のお三方が車で登って来られており一緒に記念写真。関東平野の絶景を眺め解散となった。



安戸山へむけていざ出発



安戸山山頂にて



御亭山の登山口にて



御亭山頂上Pより  
宇都宮のビル群と富士山

御亭山頂上にて  
登山組と車組が合流



きみのめのパーティーでの新年会。よく呑みましたこと

## 第14回「山」の講演会

(本支部とコンセーレとの共催事業)

日時：2023年2月26日(日)14:00～15:50

場所：宇都宮市『コンセーレ』1階小ホール

参加者：会員11名、一般29名、計40名

講師：刑部節氏

演題：「ながら山歩きの勧め」

～君の名は？鳴くまで待とうホトギス！～

- 『きれいな花、素敵なきき声も、その主の名前や特徴がわかると山歩きの楽しみが広がります。県内の山で見られる四季折々の野鳥の見分け方をご紹介します』との趣旨で講演会が開催された。当初は2021年2月に予定し、さらには2022年3月に予定したが、新型コロナウイルス感染症防止の観点から延期になっていた講演会がようやく開催されることになった。
- スライドを使い鳴き声を聞かせていただきながらの野鳥の紹介に、参加者はみなすっかり魅入っていた。頂上を目指して慌ただしい登山ばかりをしていて、いかに見落としていたものが多かったかを痛感させられた講演会であった。講演終了後に、有志で懇親会を開いた。

### 講師紹介：刑部節(おさかべ・たかし)氏

○昭和31(1956)年宇都宮市生まれ。

○昭和53年より県立高校理科教員として奉職。芳賀青年の家所長、黒磯南高等学校長を歴任。

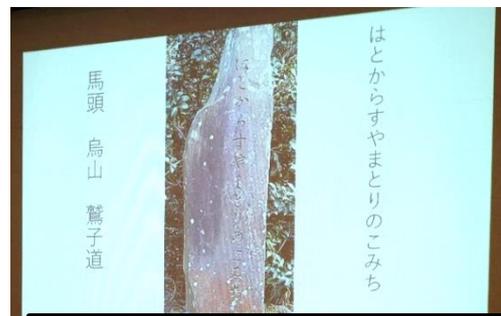
現在は、学校法人TBC学院国際ペット総合専門学校校長・国際ファッションビューティ専門学校校長・栃木県バドミントン協会理事・大田原市バドミントン協会会長・日本野鳥の会栃木県支部幹事・大田原理科クラブ事務局長・総合型地域スポーツクラブ大田原ジョイフルスポーツクラブ理事・大田原市史編纂委員自然部会長・公益財団法人飯塚教育英会奨学生選考委員等の要職に就かれている。



刑部節講師



支部長による講師紹介



こうしたスライドを使用しての講演



講演後の懇親会風景



## 栃木県「山の日」講演会

(栃木県山の日協議会)

日時：2023年3月4日(土)14:00~17:00

場所：栃木県庁研修館講堂

講師：久保田賢治氏(元山と渓谷編集長)

演題：「コロナ禍での登山の状況と今後の課題」

参加者：約60名

パネルディスカッション：

本支部からは、ファシリテーターとして石澤副支部長、パネラーとして仲島会員が参加

- 広く県民に対し「山の日」を周知し、山に親しむ機会を創出する契機とするために、「山の日」講演会が開催された。
- 久保田講師は、コロナ禍を受けて単独や少人数の登山が増え、反対に登山者間の情報交換の機会や、山行日数そのものが減っている中、山岳安全の確保のためには、登山者自身が責任を持って行動するとともに、体系化された登山道の整備・維持管理も必要であること等を述べた。
- 続いて「単独登山者の遭難防止対策」及び「登山道整備の現状と課題」をテーマに、県内5つの山岳団体の代表者を迎えて、久保田講師を交えてパネルディスカッションがあった。単独登山者の中には山岳会等の組織に属さない人も多くおり、そうした人には特に登山届の提出や家族への報告といった、事前連絡の重要性を認識してもらいたいとの意見があった。また本県は登山道整備の大部分をボランティアが担っており、より安定した登山道整備のためには、入山料の徴収といった受益者負担の仕組みの導入も必要であるとの意見もあった。



## ヒマラヤの集い2023

(本支部とコンセーレとの共催事業)

日時：2023年3月21日(火)13:30~15:00

場所：宇都宮市『コンセーレ』小ホール

講師：松田宏也氏(日本山岳会千葉支部長)

演題：「グレート・ヒマラヤ・トラバース」

参加者：本支部会員10名、一般8名、計18名

- コロナ禍により自粛していた「ヒマラヤの集い」は3年ぶり。講師はかねてより依頼していた松田宏也氏を今回やっとお招きできた。
- 講演はあの奇跡の生還から始まった。1982年、中国四川省ミニヤコンカ峰への登頂に挑戦したが、悪天候に阻まれ遭難。下山で行方不明となり19日後、体重は30kg代にまで減ったが、奇蹟的に地元農民に発見された。生還は遂げたものの、凍傷に侵され、両手指と両脚の膝下を切断。500日のリハビリテーションの末、社会復帰。
- その後も切断障害を抱えた身で、丹沢、北アルプス、南アルプスでトレーニングし、1986年に厳冬の富士山に単独登頂、1988年に厳冬の北海道斜里岳に登頂(両足義足で斜里岳に山スキーと改造したピッケルを駆使しながら挑んだ「地球浪漫『山よ、友よ、僕はまた登る』」のDVDも講演中に視聴した)、1995年には小西政継氏らとシシャパンマへ遠征するなど、現役で活躍を続け、JACの記念行事「グレート・ヒマラヤ・トラバース」の1stステージに、重廣恒夫氏、吉井修氏と共に参加した。
- 2020年2月29日に日本を立ち、山中40泊41日に及ぶ踏査を終え、5月15日に帰国するまでのお話を聞かせていただいた。キャラバン中の生活やロックダウンしたネパールの実情が紹介された。素晴らしい写真と飾らない人間性が感じられ90分の講演はあっという間だった。元ネパール大使の神長善次氏からの質疑もあった。
- 講演後、関係者で講師と共に懇親会を開いた。

